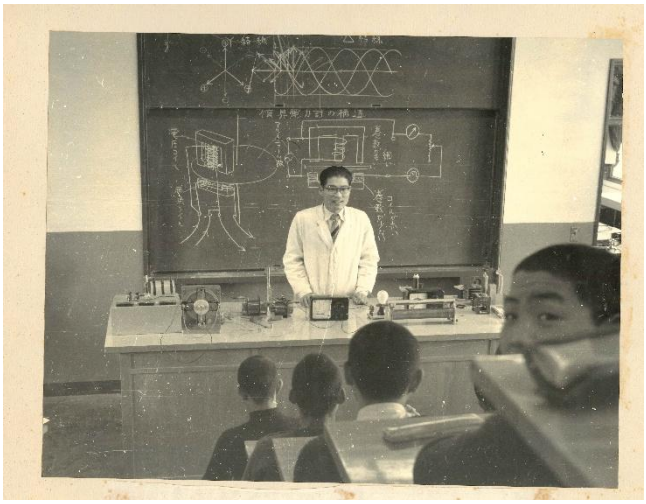
「ドイツ製実験器具」

相本　実男　（理科教諭　1956～1962）

ドイツのレイボルト社製の実験器具を使用しての授業風景です。私の前にあるのは変圧器の説明装置です。鉄心とコイルが数種類あって、それらを組み合わせることにより、変圧器の原理を分かりやすく説明できて、とても気に入っていました。現在ではこの種の実験器具は日本各社のメーカーで発売されています。また、配線用接続器具に１ヶ所から何個でも接続できる追加接続可能接続線もあり、使ってみて、その便利さに、流石ドイツだなあと感心させられました。(中略)

このように、ドイツからのレイボルト社製の優れた実験器具を使用しての授業が出来たことは私にとってとても幸せでした。しかし苦労もありました。何しろ取扱説明書が全部ドイツ語です。あるとき、ドイツ人であるエーデルマン神父に「これを訳してください」とお願いしたところ、「貴方は日本語で書かれた医学書を訳せますか」と断られてしまいました。つまり各所に出てくる単語は全く分からないのだとそうです。仕方なしにドイツ語の辞書を引きながら説明書を読むという時間のかかる教材準備でした。



相本教諭と実験器具



階段教室生徒の様子

『広島学院の半世紀　広島学院創立 50 周年記念誌』より
写真　広島学院校史資料室保管